

【分科会4】地域における家族支援のあり方を考える

コーディネーター: 贅川信幸(日本社会事業大学)、大島巖(日本社会事業大学)

出演者: 飯塚壽美(さいたま市精神障害者家族会連絡会)

木本達男氏(岡山市保健所)

山本賢(飯能市精神保健福祉相談員会)

本分科会には、約 60 名の方に参加して頂きました。参加者の約 8 割が専門家、約 2 割は障害をもつ方の家族でした。家族の立場で参加された方の多くが「家族による家族学習会」に関わった経験をお持ちでした。

本分科会では、本人や家族がリカバリーの道を進むことをサポートする地域での家族支援を、どのように行っていけば良いか、仕組みをどのように作っていけばよいかという点を中心に、取り組みの報告を頂きました。

飯塚壽美氏(さいたま市精神障害者家族会連合会)からは、家族会がチームで運営する「家族による家族学習会」の取り組みを中心に発表頂きました。家族学習会によって、家族が体験を共有し分かち合い安心感と連帯感(広がり)が得られること、保健所の研修会で家族学習会の取り組みを紹介することで、家族会参加者が増えたこと、行政担当者に実際に家族学習会を見てもらうことで広がりのための工夫をしてきたことなど、地域で家族支援を展開するための幅広い活動を紹介して頂きました。家族会の人数が減少してくる中で、その活性化をはかる工夫でもあり、また、家族会は保健所等に“具体的な支援”を求めていることを、経験をもとに訴える内容でした。

山本賢氏(飯能市精神保健福祉相談員会)からは、行政の立場から地域の家族支援をどのように展開できるのか、窮状も踏まえながら行える取り組みを発表頂きました。地域事業所では、市町村の委託事業を行っていても家族支援に関する契約がほとんど含まれていない現状が、発表からもフロアの反応からも伺えました。そうした現状から一歩踏み出すために、地域福祉計画に「ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)」を盛り込んで家族支援の展開を提案してきたことが紹介されました。他方、地域事業所等の支援者には、地域福祉計画策定に加わり市町村担当者と共に考えることの重要性が訴えられました。

木本達男氏(岡山市保健所)からは、地域の多機関でネットワークを形成して家族心理教育を広める取り組みについて発表頂きました。機関や立場を超えて家族心理教育に関心をもつ専門家で「岡山心理教育研究会」を立ち上げ、支援者が家族心理教育を実施できそうだと思うようになることを目的に、勉強会、周辺機関に声掛けをしての研修会の実施、出前講座の実施等、岡山市を中心に展開してきた取り組みを紹介頂きました。また、家族会とも協働することで、家族心理教育を家族会において実施してみることや、家族による家族学習会の実演を行い、行政担当者に家族が変わっていく姿を見てもらう等、機関を超えた支援体制での広範囲な取り組みが紹介されました。

参加者からは、地域での家族支援の取り組みに関する質問が多く寄せられました。この質疑の時間は、自分たちの地域でもちょっとした工夫によって家族支援を展開していけるのではないかという希望につながる機会となったようにも思います。

《贅川信幸(日本社会事業大学社会事業研究所/NPO法人地域精神保健福祉機構 保健福祉研究所)》